



5月18日(金)は“ピアサポート”でした。中学1年生と高校1年生(玉高附中出身)が、一緒に昼食を取りながら交流しました。中学1年生の感想を紹介します。写真は高校1年生の教室での様子です。

○初めは、先輩がしゃべっていて、『ちゃんと聞かないと!』と思って、弁当が食べづらかった。でもだんだん慣れて楽しく食べることができた。○勉強のことが心配でなやんでいたの、先輩方の明るい一言でとても安心できました。普段、聞けないことなど、心の内側にあるなやみを相談できて良かったです。○高校の先輩方と話してとても良かったです。おもしろい話や、勉強法など話してもらいました。ぼくも、高校生になったら先輩たちのように中1に教えてあげられるようになりたいです。○高校1年生の先輩方と交流を深めることができて良かったです。中間テスト前に先輩方がやっていることとしては3分前ぐらいのぎりぎりまで、うしろで友達と問題を出しあっているときいて、はじめて知りました。私もやってみたいと思いました。 ※名前・出身小は省略しました。



<体育祭の感想・思い>

写真は黄団の人文字と団長の浦上くん(玉名高校)です。



僕は、今年の体育祭で高校2年生のダンスリーダーを務めました。ダンスリーダーと言っても、人よりダンスが上手なわけでも、覚えるのが早いわけでもない。人をまとめるのも苦手だ。そんな僕がダンスリーダーに志願したのは、ダンスをみんなと楽しみたいと思ったからだ。初めは言いたいことをうまく伝えることができず、とても苦労した。だが、本番では楽しく踊ることができた。何より良かったのは、これを経験して、人をまとめることの難しさや、ダンスの楽しさを改めて知ることができたことだ。

この経験を生かし、これから学校を引っぱっていく一員として頑張ろうと思う。また、このような機会があったら、これからも積極的に参加していこうと思う。(玉名高校 小川くん)

私は、生徒会に所属しており、今回の体育祭は、その活動の集大成でした。春休みから本格的に準備を始めたのですが、私は器楽部の練習や、英語を使った教養大会の準備もあり、両立するのが大変で、他の生徒会メンバーには迷惑をかけました。それでもなんとか、先輩や同級生の仕事ぶりを見て学び、自分はどう動くべきかを考えて、本番まで準備を進めました。

本番は、縮小開催となり、予行と違う動きに戸惑いも生じましたが、準備を重ねていたおかげで、適切な対応ができ、無事、体育祭を成功させることができました。生徒会の仕事は、裏方ゆえに責任重大でしたが、体育祭を創っているんだという充実感があり、やりがいを持ってました。来年は、今年の実績と附属中出身としての視点を生かし、最高学年として、よりよい体育祭を創ります。

(玉名高校 荒木さん)

体育祭は一つの作品ですが、グラウンドからスタンド、そして背景の空までが大きなキャンパスです。その真ん中に黄団団長 浦上くんが“心”と大きく書いたようでとても印象に残りました。

2018.5.24 副校長 山部